



環境リスクPress

2024年11月発行／VOL.52

環境リスク関連ニュース

文科省)学校施設等の石綿含有保温材等の使用状況調査結果(2024/9)

文科省は令和6年9月に、令和5年10月1日時点の学校施設等における石綿含有保温材等の使用状況調査(特定調査)結果を公表した。

1. 石綿の含有の有無にかかわらず、劣化、損傷等がある保温材等を保有する機関【平成30年度調査(前回)】210 機関⇒【令和5年度調査(今回)】72 機関((1)飛散防止措置を実施済み 42機関、(2)当該保温材等を分析し、石綿を含有していないことが判明している7機関、(3)定期的に室内の大気中アスベスト濃度を測定し、安全を確認している5機関、(4)当該保温材等がある室に対して、施錠や立入り禁止措置を実施している12機関、(5)上記のような飛散・ばく露防止対策を講じていないが、早急に対策を実施する予定6機関)
2. 石綿を含有し、劣化、損傷等がある煙突用断熱材を保有する機関【平成30年度調査(前回)】212 機関⇒【令和5年度調査(今回)】120 機関((1)飛散防止措置を実施済み 23 機関、(2)当該煙突の利用を停止済み 28 機関(3)定期的に室内の大気中アスベスト濃度を測定し、安全を確認している21 機関、(4)当該煙突が施設利用者が通常立ち入らない場所(機械室、設備室等)にある(職員等の入室の際にばく露防止措置を実施している)48機関(5)上記のような飛散・ばく露防止対策を講じていないが、早急に対策を実施する予定0機関)

鹿児島県)アスベスト事前調査せず作業させた疑い 書類送検(2024/9)

川内労働基準監督署(鹿児島県)は13日、労働安全衛生法(石綿に係る事前調査未実施)違反の疑いで、福岡市の会社の代表取締役の30代男性を鹿児島地検川内支部に書類送検した。送検容疑は5月16～24日、鹿児島県出水市の工場改修工事現場で、アスベスト(石綿)の使用有無について事前調査せず作業員に作業させた疑い。同署によると、石綿が含まれる建材があった。健康被害は確認されていない

環境リスク関連ニュース

石川県)1年以内に3万2千棟全解体完了へ公費解体加速(2024/9)

岸田総理は19日、石川県能登を訪れ、輪島朝市エリア等を視察。視察後記者団に「瓦礫の撤去が概ね完了したという報告を受けた。輪島市の門前地区、町野地区における面的な解体・撤去にも支援をしていきたい。来年10月までに3万2000棟全ての解体完了に向け、全国の解体業者の協力を得て、1120班体制で公費解体を更に加速していきたい」と語った。

北海道)建設現場で石綿、5社に2億5000万円賠償命令(2024/9)

建設現場でアスベスト(石綿)を吸い肺がんなどを患ったとして、元労働者や遺族計34人が建材メーカー19社に計4億8510万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、札幌地裁は20日、うち5社に計2億5280万円の支払いを命じた。原告全員の請求が認められた。

花王(株)油で汚染された土壌専用の洗浄剤を開発(2024/9)

花王株式会社テクノケミカル研究所は、油で汚染された土壌専用の洗浄剤を開発し、土を移動させることなくその場で洗浄する工法を構築しました。この方法は従来よりも簡単かつ低コストで油汚染を取り除くことができ、汚染が理由で土地が放置されるブラウンフィールド問題に向けて有用としている。ガソリンスタンドや工場跡地で発生する油由来の汚染に着目。得意とする界面化学技術と衣類の洗たくで培ってきた知見を活かし、汚染された土壌を移動させずにその場で洗浄できる新たな洗浄剤の開発した。従来の洗浄剤では75μm以下の小さい土粒子の間に集まった油を引き剥がすことはできていなかったが、同社では土粒子同士をバラバラに分散させ、かつ土粒子表面を油と反発する性質(親水性)に変化させることを考案。これにより、水を加えて攪拌すると、土の粒度に左右されず、土に付着した油だけを引き剥がして分離し、水中に浮き上がらせることが可能な土壌専用洗浄剤の開発に成功した。この洗浄剤を使用することで、プラントに運搬して機械による洗浄をせずとも、その場で土壌を洗浄できると考えられ、大きな改善が見込まれる。

過去の環境リスクPressはこちらから [環境リスク.COM](https://www.kankyorisk.com) <https://www.kankyorisk.com>

【発行】 アスベックス株式会社

〒194-0023 東京都町田市旭町2-7-8

[TEL]042-726-0744 [FAX]042-726-0726